



# 『ビジョナリー・カンパニー ZERO』

ジム・コリンズ(著)

日経BP  
(2021/8)

2,420円

経営論の名著として、世界で1,000万部を突破した『ビジョナリー・カンパニー』シリーズの最新刊。

## 【感想】

スタートアップや中小企業が「偉大で永続的な企業」になるために必要なロードマップを凝縮してまとめた一冊。

NETFLIXの創業者・CFOが「どの本よりも、私のリーダーシップを一変させてくれた。10年以上この本を読み返した」というほど、「リーダーシップ」がこの著書の大きなテーマです。

有能なリーダーに共通する7つの要素(1. 誠実さ 2. 決断力 3. 集中力 4. 人間味 5. 対人スキル 6. コミュニケーション能力 7. 常に前進する姿勢)を解説しており、リーダーとして、どのようにビジョン・パーパス・戦略・戦術を描き、現場に落とし込んでいくかということを教えてください

「偉大な企業という目的地があるわけではない。ひたすら成長と改善を積み重ねていく、長く困難で苦しい道のりだ。高みに上り詰めると、新たな課題、リスク、冒険、さらに高い基準を探す。」と書いてありますが、どんなステージの会社であれ、新たな指針を示してくれる内容です。

## 【以下引用】

・最高の製品を生み出し続ける、時代を超える偉大な企業を作る唯一の方法は、正しい文化の下で正しい人材が働く状態を生み出すこと。

・リーダーシップとは、部下にやらなければならないことをやりたいと思わせる技術である。

・あなたの行動が社員の行動にどれほど影響与えるか、過小評価してはならない。

・細部へのこだわりを象徴する行為によって価値観を浸透させる。偉大な企業を作る経営者によく見られる矛盾がある。ハイレベルなビジョンと戦略に集中しつつ、一見取るに足らないディティール(細部)にこだわるのだ。ディティールは重要だ。並外れて優秀なリーダーは、ビジョンとディティールの両方に徹底的にこだわる。ディティールへの対処の仕方が、ハイレベルな意思表示になることもある。一見どういふことのないディティールへの経営者自身の反応はとてつもない重みを持ち、企業理念の鮮やかな象徴として社員の脳裏に刻み込まれることもある。

・全社員が一貫して卓越した戦術の遂行をするには、6ステップで構成される終わりのないプロセスが必要になる

採用→文化を植えつける→研修→目標設定→測定→評価

・自社開発主義シンдрーム(社内で生まれたもの以外は認めない)を蔓延させてはならない。

長きにわたって存続していく企業をつくるためのヒントがあり、そして、リーダーとしてどうあるべきか?と背中を押してくれる一冊です。